

北川漁協

下塚森組

2地権者

# 山と川協力の輪広がる

23.6.12

## 「水源の森」新たに68ヘクタール

豊かな自然を次世代へ。「水を守る森を残そうかい」を銘打ち、北川の環境保全活動を続ける北川漁協（延岡市北川町、長瀬二巨組会長）は8日、下塚生業森林組合などから68・5ヘクタールの自然林を30年間借り受ける契約に調印した。同漁協は2000年から水

辺の環境保全を目的に、雑木林を借り受け、伐採などから保護する活動を展開。今回、同漁協と調印したのは同森林組合（契約は09、10年度）と2人の地権者（同09年度）。09年度分は昨年調印する予定だったが、口蹄疫の影響で延期していた。契約は30年間、1

移につき2万円支払う。「水源の森」は合計449・4ヘクタールに広がった。

同日、町内の「ホテルの宿」であった調印式には、関係者ら35人が出席。同森林組合、2地権者との契約内容を確認、計68・5ヘクタールの森林保護を約束した。

### 残る森を残そうかい 調印式



雑木林の保護を約束した「水を守る森を残そうかい」調印式

長瀬組会長は「本県は林道進捗（しんちよく）率日本一で、林道が開れる影響で北川に濁水が流れる。水源の森保全を多岐にわたって続けているかなければならない」とあいさつ。地権者の一人で、4・5ヘクタールを提供した矢野政治さん（57）「同町」は「少しでも提供することで、地元の環境保全につながる。協力の輪が広がってほしい」と話していた。

調印式後には、出席者全員で、坂を流れる北川にヤマメやアユを放流した。